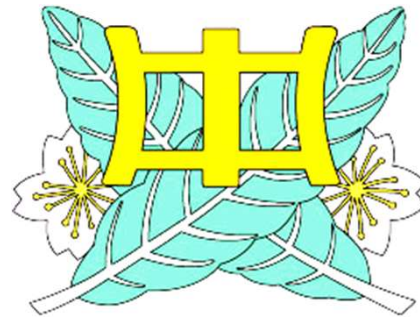


令和3年度 広島市の学校における働き方改革推進
フォーラム
「働き方改革推進モデル校」実践発表



広島市立牛田中学校
生徒数671名 21学級
(令和3年5月1日現在)

I 本校のめざす学校像など

めざす学校像

「すべての生徒の夢や希望や可能性が大切にされる学校」

学校教育目標

「自立し、互いに、支え合い、高め合う生徒の育成」

令和3年度の学校経営の方向性

①生徒主体の学校づくり ②持続可能な学校組織の構築

令和3年度の広島市教育委員会による研究指定

・情報教育推進校・不登校支援実践指定校・働き方改革推進モデル校

2 広島市の学校における働き方改革推進 プランの達成目標に対する実績（令和2年度）

区分	プランの達成目標	本校
全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間	45時間以下	43.1時間
連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合	0%	2.5%
年次有給休暇の平均取得日数	16日以上	8.3日

3 課題と今年度の方向性

校内アンケート（4月）

子どもと向き合う時間が確保できている 26.5%



子どもと向き合う時間を創出する必要がある



学校の強みを生かして働き方改革に取り組むことはできないか

- ・ ICTの活用←情報教育推進校
- ・ 生徒会活動との連動←活発な生徒会活動

3 課題と今年度の方向性

- ・ ICTの活用

- 会議・打ち合わせ、保護者等への連絡などにおいて、ICTを有効活用して効率化を図る。

- ・ 生徒会活動との連動

- 校則の見直しに取り組み、不要な生徒指導やそれに伴う保護者連絡などを減らす。

4 具体的な取組

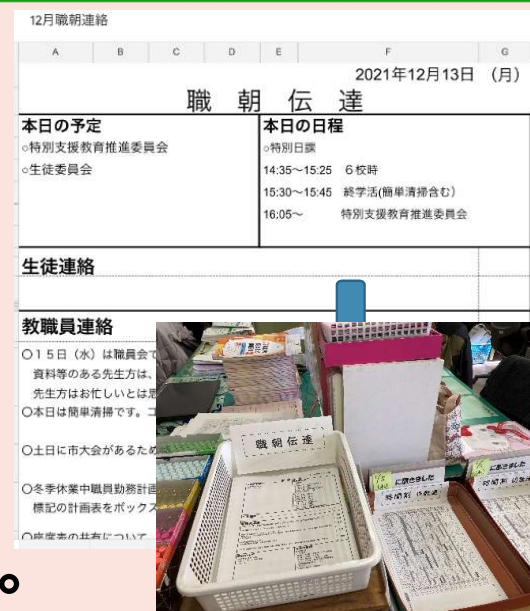
(1) ICTの活用

① Google Classroomによる職朝伝達

これまで、主幹教諭による資料印刷や各教職員の個人ボックスへの配布に時間がかかっていた。



- ・多くの部数の印刷、配布が不要になったことで負担が大きく軽減した。
- ・タブレットの利用により、いつでもどこでも書込みや確認が可能になった。



4 具体的な取組

(1) ICTの活用

② Google Classroomによる生徒アンケートの実施

これまで、子どもの実態を把握するためのアンケート調査や学期末の生活の振り返り等は、紙ベースで行い、集計の負担が大きかった。



- ・ 集計、分析時間が大幅に短縮した。
- ・ 過去のデータを活用した継続的な指導が可能になった。

(例) 子どもの実態を把握するためのアンケート調査の平均集計時間

活用前90分 → 活用後30分

1/3

4 具体的な取組

(1) ICTの活用

③ Google Classroomによる欠席生徒への連絡

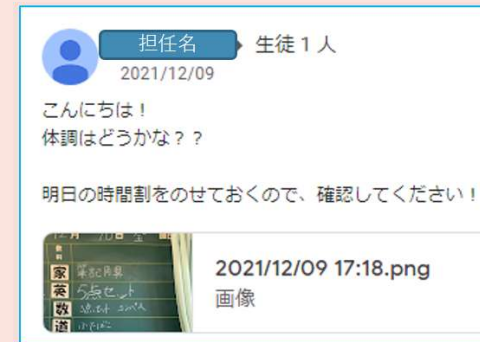
これまでは電話により連絡しており、放課後に職員室の電話が混み合っていた。



- ・待ち時間なく、確実に伝達事項を伝えられるようになった。
- ・今後、使用方法の生徒・保護者への周知徹底や、ICT支援員のサポートによる教職員のスキルアップが必要。

校内アンケート調査結果

業務の効率化が図られた 56.3%



4 具体的な取組

(2) 生徒会活動との連動

従来から、特に服装に関する校則について、生徒や保護者から見直しを求める要望があった。



① 更衣移行期間の見直し

学校が設定していた年2回の更衣移行期間を廃止し、生徒の判断で行うようにした。

② 防寒着の見直し

マフラー、ストッキングの色などの規定をなくした。



4 具体的な取組

(2) 生徒会活動との連動



校則を見直したことで、

- ・ 服装を細かく確認したり、違反があった場合の指導や保護者への連絡の必要がなくなり、その時間が縮減された。
 - ・ 更衣移行期間を知らせるためのプリントも不要になった。
- 今後も、他にも見直せる校則はないか検討していく。

校内アンケート調査結果

服装指導の負担が軽減された 69.5%



牛田中 キャラクター
うっちゃん

5 その他の取組

① スクールサポートスタッフの活用

時間外勤務時間の多い教職員のフォローとなる業務を優先的に依頼する。



② 教頭・主幹の業務分担の平準化

教頭 → 教育委員会等への報告書など対外的な業務を中心に担う。

主幹 → 授業づくり、生徒指導など教員の指導力向上に関わる取組を中心に担う。

業務によっては、必要に応じて他の教職員に割り振っている。

6 今年度のまとめ

(1) 今年度の実績

区分	プランの達成目標	本校 (令和2年度)	本校 (令和3年 12月時点)
全教職員の年間月平均の勤務時間外の在校等時間	45時間以下	43.1時間	34.5時間
連続した3か月平均で勤務時間外の在校等時間が80時間超の教職員の割合	0%	2.5%	0%
年次有給休暇の平均取得日数	16日以上	8.3日	10.1日



6 今年度のまとめ

(2) 校内アンケート調査結果

	4月		12月
子どもと向き合う時間が確保できている	26.5%	→	56.0%
働き方改革に取り組もうとする意識がある	63.9%	→	84.0%



7 次年度の方方向性

校内アンケート調査結果（12月）

勤務時間外の在校等時間を縮減させるための取組を実践している
36%

働き方改革に取り組む意識は高まったが、個々の具体的な取組につなげていくことが必要



- ・ ICTの活用の定着
→ 全ての教職員がICTを有効活用できるようにするための効果的な研修の実施
- ・ 組織的な働き方改革の取組の推進
→ 校内推進体制の充実